

福島市認知症施策

福島市オレンジプラン 2021

～概要版～

(令和3年度～5年度)



認知症とは、様々な原因で脳の細胞が損傷を受け、脳の働きが悪くなり、日常生活を送るうえで様々な支障がでる状態のことです。今後、さらに高齢化が進み、認知症の方が増えていくとの予測がされています。

国では、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、「新オレンジプラン」を進め、令和元年6月に「共生」と「予防」※を車の両輪として進める「認知症施策推進大綱」を取りまとめました。

福島市では“すべての人が人間として尊ばれ、生きがいを持ち、心豊かに、安心して安全に暮らせる長寿社会の実現”を目指し、福島市高齢者福祉計画をもとに、平成27年度第1期、平成30年度第2期に続き、第3期「福島市オレンジプラン2021」を策定しました。また、認知症の人本人やその家族の思いを施策展開に活用するため、「認知症の人と家族の実態調査 ところの声アンケート」を実施しました。認知症の人本人やその家族の視点をプランに反映させ、施策を推進していきます。

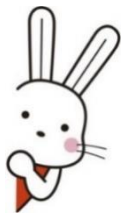
※「共生」とは、認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症とともに生きる、また、認知症があってもなくても同じ社会でともに生きるという意味。

「予防」とは、「認知症にならない」という意味ではなく、「認知症になるのを遅らせる」「認知症になっても進行を緩やかにする」という意味。

福島市 長寿福祉課

令和3年度作成

福島市認知症施策—福島市オレンジプラン2021



2025年（令和7年）の目指す姿

すべての人が人間として尊ばれ、生きがいを持ち、心豊かに、安心して安全に暮らせる
長寿社会の実現

目指す姿を実現するための5つの視点

- 1 認知症の人の尊厳が保持され、地域の一員としてその人らしく暮らし続けることができる
- 2 認知症の人やその家族の思いを重視する
- 3 誰もが認知症について偏見なく正しく理解している
- 4 認知症になっていない人も予防および早期発見のための手立てをとることができる
- 5 公助・共助のサービスに加え、地域住民やボランティア等による支え合い（互助）より、認知症のそれぞれの段階に応じて適切に途切れなく受けることができる

実現へ向けての5つの主な取り組み

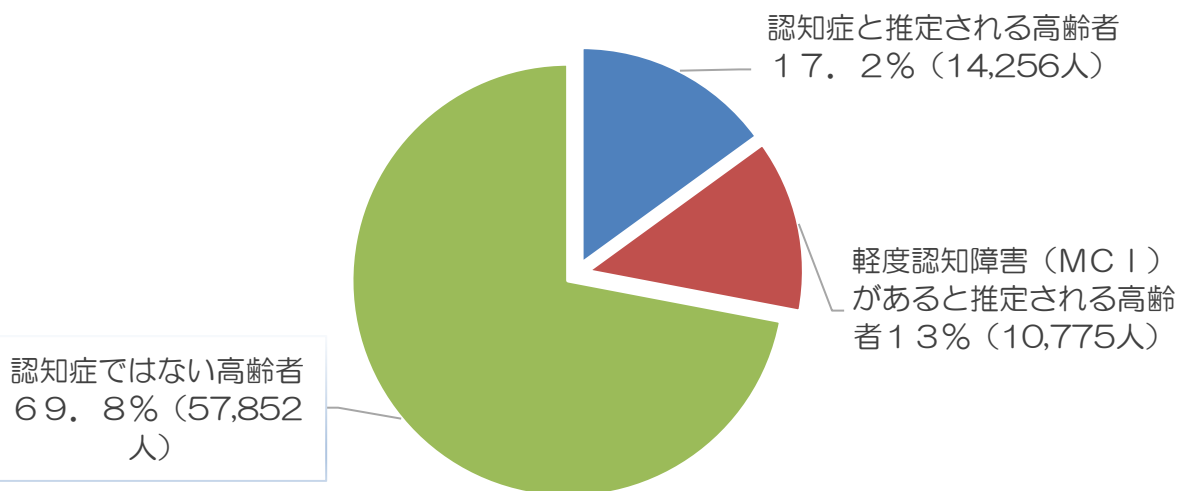
- 取組Ⅰ 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- 取組Ⅱ 認知症の発症遅延、進行緩和の推進
- 取組Ⅲ 切れ目のない医療・介護サービス体制づくり
- 取組Ⅴ 地域での日常生活・家族支援の強化
- 取組Ⅵ 若年性認知症への対策

高齢者の現状

福島市の高齢化率は、令和2年10月1日現在、30.0%となり、約3人に1人が高齢者という状況です。また、軽度認知障害（MCI）も含めると、高齢者の約3～4人に1人が認知機能に低下がみられると推定されます。

若年性認知症の人については、厚生労働省研究班の算出方法によると、福島市に約78人いると推定されます。

福島市の認知症高齢者の推計



令和2年10月1日現在 高齢者人口 82,883人（福島市人口 275,966人）



※軽度認知障害（MCI）とは、日常生活は自立しているが、軽い認知機能の低下がみられる状態のこと



5つの主な取組—抜粋—



視点	主な取組	目標	内容
認知症の人の尊厳が保持され、地域の一員としてその人らしく暮らし続けることができる	I 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進	市民の認知症への理解を広げる	<ul style="list-style-type: none"> 認知症サポーター養成講座・学習会・講演会等の開催 認知症啓発イベントの開催 認知症ガイドブック(認知症ケアパス)を活用した啓発 「認知症の人と家族の実態調査 こころの声アンケート」の実施と活用
認知症の人やその家族の思いを重視する	II 認知症の発症遅延、進行緩和の推進	<ol style="list-style-type: none"> 発症遅延や発症リスク低減(一次予防) 早期発見・早期対応(二次予防) 重症化予防、機能維持、BPSDの予防(三次予防) 	<ul style="list-style-type: none"> 生活習慣病予防のための普及・啓発 いきいきもりん体操やサロン等を通しての生きがいづくりや社会参加の促進 早期発見の重要性の啓発 認知症について相談できる場の確保と相談先の周知 認知症地域支援推進員の機能向上 認知症初期集中支援チームの充実と連携強化 地域ケア会議やネットワークづくりを通して、関係機関での連携強化の仕組みづくり かかりつけ医、もの忘れ相談医を中心とした医療と介護の連携強化 BPSDの予防や適切な対応についての普及・啓発と専門職の対応力の向上
誰もが認知症について偏見なく正しく理解している	III 切れ目のない医療・介護サービス体制づくり	<ol style="list-style-type: none"> 切れ目なく認知症治療が受けられる体制の整備 切れ目なく介護サービスが受けられる体制の整備 医療と介護の多職種間の連携強化及び支援体制の仕組みづくり 発症以前より意思決定を行いながら将来を迎えることができる仕組みづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 認知症地域支援推進員、かかりつけ医、認知症サポート医、認知症専門医、認知症疾患医療センターの連携が取れる体制づくり 在宅医療・介護連携支援センターを活用した多職種間の連携の推進 認知症対応力向上研修の開催 地域資源の発掘と資源の見える化による地域との情報共有 発症以前より将来の生活について意思決定することについての普及・啓発 わたしの人生ノート等を活用し、本人の意思決定を関係者間で共有できる取組
認知症になっていない人も予防および早期発見のための手立てをとることができる	IV 地域での日常生活・家族支援の強化	<ol style="list-style-type: none"> 認知症の人を支える地域づくり 家族介護者の負担軽減等への取組の強化 高齢者の虐待防止などの権利擁護の取組の推進 	<ul style="list-style-type: none"> 「認知症の人と家族の実態調査 こころの声アンケート」の実施と活用 認知症について相談できる場の確保と相談先の周知 地域住民や企業を含めた関係機関による高齢者見守りの推進 認知症カフェ・認知症高齢者見守り声かけ訓練等の取組への支援 認知症になっても社会参加できる場・仕組みづくり 認知症高齢者QRコード活用見守り事業の普及啓発 認知症サポーター活躍の仕組みづくり キャラバン・メイトの活動の充実 認知症地域支援推進員の機能向上 認知症の人と家族の会の周知と情報共有・意見交換 高齢者虐待・詐欺被害防止の啓発と研修会の開催 成年後見制度、権利擁護センター事業の啓発及び推進
公助・共助のサービスに加え、地域住民やボランティア等による支え合い(互助)により認知症のそれぞれの段階に応じて適切に適切に受け渡すことができる	V 若年性認知症への対策	<ol style="list-style-type: none"> 若年性認知症への理解を広げる 相談先の周知 若年性認知症の特性に応じた専門的支援ができる体制づくり 居場所・生きがいづくり 	<ul style="list-style-type: none"> 企業等への若年性認知症の普及・啓発 産業保健担当者・担当機関への周知 若年性認知症の研修会の開催 実態調査(県)の結果の反映 気軽に相談できる居場所や活動の場の充実と周知 地域活動や就労など社会参加へ向けた取組の推進

福島市オレンジプラン2021 具体的な取組について

認知症ガイドブック（認知症ケアパス） もの忘れ相談医MAP

認知症のことを正しく理解し、早期発見や治療につなげていただけるよう、認知症の基礎知識や認知症の方への接し方、地域の相談窓口等の情報を掲載しています。

認知症について相談できる「もの忘れ相談医MAP」も掲載しています。



認知症地域支援推進員 （地域包括支援センターに配置）

認知症の方やその家族が地域で安心して生活できるよう、相談支援や関係機関の連携強化、認知症についての普及啓発などを行っています。



認知症カフェ（オレンジカフェ）

認知症の方やその家族、地域住民や専門職が互いに交流したり、情報交換などを行うことを目的に開催しています。参加者の体験談から学べたり、息抜きができたり、相談することで気持ちが楽になったりします。みなさんがホッと一息つける場です。



認知症サポーター養成講座

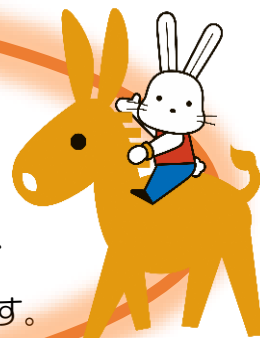
認知症を正しく理解し、認知症の方への接し方などを学びます。受講者にはオレンジリングを贈呈しています。



認知症の人と家族の実態調査 こころの声アンケート

認知症のご本人、家族にアンケートを行い、思いを伺い発信していきます。また、認知症のご本人の気持ちを重視し、認知症施策に活かしていきます。

アンケート結果は、福島市ホームページに掲載しております。



認知症初期集中支援チーム

認知症の不安がある方やご家族に早期に関わり、医療や福祉につなぐ支援を集中的に行います。チーム員が家庭訪問などを行い、関係機関と連携を図りながら支援を行っていきます。

福島市は、あずま通りクリニックに委託しています。



わたしの人生ノート ～これまでの、 そしてこれからのわたし～

最期まで自分らしい生活を送るためには、元気なうちから「これまでのわたし」を振り返り、「これからのわたし」を考え家族等へ伝えておくことが大切です。

その伝えた思いを書き留めておいたり、伝えるときの手助けになるのが「わたしの人生ノート」です。



認知症高齢者等見守り声掛け訓練

～地域での日頃からの見守る力を高めるために～

認知症の方が行方不明になったという設定のもと、地域のネットワークを活用し、捜索の流れや実際の対応を体験します。地域住民、町内会、民生児童委員、地域包括支援センター、介護事業所、警察、行政などが協力し行います。



福島市長寿福祉課地域包括ケア推進室

〒960-8601 福島市五老内町3番1号

TEL 024-529-5064 FAX 024-526-3678